

「教育委員一期4年間を振り返って」

岐阜市教育委員 伊藤 知子

子育て、企業経営、観光業の担い手という3足の草鞋に、思いがけず教育という分野の1足が加わり早4年が経ちました。当初はやる気だけで臨んだ私ですが、今ではすっかり教育の虜に。新しい学びを続けながら、コミュニティティーチャーや大学運営委員、また学習塾経営にまで幅を広げ、子供たちの成長に関われる喜びを感じると共に、教育格差や教員のオーバーワークなど公教育の数えきれない課題も身近に感じています。

コロナ禍で社会は大きく変化しました。「集まってはいけない」という新しいルールができ、学び方も働き方も大きく変わりました。また集団より個人の幸せを追求する時代になり、私の経営する企業でも社員それぞれが自分の仕事に対してやりがいや充実感を感じることができれば生産性も上がることを目の当たりにしています。ただその分、周囲の出来事を自分事として考えづらい状況も増えています。ネットの表面的な情報だけでは真の姿は見えてきません。子供たちにとって様々な業界の苦労や失敗、誇れる技術を確立するプロセスなど、生の情報や世界観を伝えていく必要がありますが、そのような機会に恵まれているとは言えません。正解のない「生き方」探究はまさにこの事。自分のアイデンティティーを確立していく学びは教員だけではなしえない領域です。それをカバーするのは地域の大人たちではないでしょうか。「私たちの町にはこんな大人がいる」「こんな子供の育て方をしていく」という新たなシビックプライドが子供も大人にも醸成されることを期待します。是非、think global act local が実践でき故郷に愛情を感じている人財を世に送り出していきましょう。私自身も教育が変われば人も変わり、社会も変わっていくことを信じて多様な考えに耳を傾け尽力したいと願っております。県内の園児に配布される子育て情報誌「ままこっつと」に子育てコラムを掲載していますので機会がございましたらお目通し下さいますと幸いです。

教育への期待

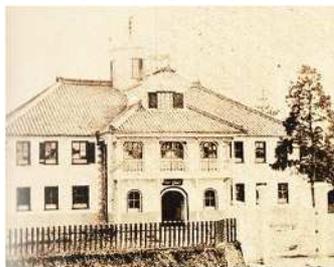
北方町教育委員 林 明夫

教育への私たちの期待は、極めて大きなものがあります。

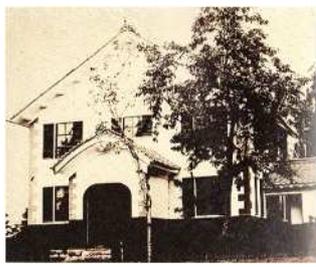
そこには、私たちの先輩諸氏が果たした学校設置の誇りと苦勞があります。
そこには、現代社会を生き抜く子供の育成に関わる私たちの願いがあります。

【学校設置にかかわる先人の期待】

明治5年に学制がしかれると、北方村では、小学校設立発起人が明治6年5月「小學義校開業願書」を岐阜縣令に提出し、旧領主・戸田家の学問所化成座を改称して、「化成舎」を創立しました。同時期同じように、お寺の寺子屋を基に南隣りの高屋村・柱本村では「時習義校」、北隣りの加茂村・芝原村では「格物義校」が創立され、その後それぞれ、村立の「北方学校」「時習学校」「格物学校」となりました。



<北方学校>



<時習学校>



<格物学校>

明治23年市町村に学校設置義務が規定されるまで、費用は設置発起人たちの寄付と戸主全員の戸割に拠りました。校舎費用では現在価格で各戸主6万円程負担になることもあり、毎月の授業料（500円～1000円程）などから反対運動が起こりました。そのため当初は3割弱という低い就学率（就学すれば働き手を失うという理由も大きかった）でした。その後、関係者の尽力で教育は子供の幸福と国家発展の礎という理解が広まり、数年で就学率は7割を越えていきました。勉学に励む子供の笑顔や成長を支えに、苦しい時代を懸命に生きた村民の姿が目に見えます。

こうした姿勢は、大正9年の「本巣中学校」や翌年の「本巣高等女学校」の創設、昭和8年の「岐阜農林学校」の誘致にも表れました。短期間に多額な税負担（校地や校舎費用の負担）に何とか耐えて行った3つの旧制中学校の設置は全国的にも珍しくて、未来をつくる若者に期待する先人の歩みは私たちの誇りとなっています。

令和5年には「北方義務教育学校（北学園・南学園）」の創設が予定され、私たちは教育の新たな時代が拓かれると楽しみにしています。

以上、学校設置に関わる熱い思いを紹介させていただきました。現在の教育が一層充実することを願う私たちです。